

解答

《一》

問一 ロボットと共生する時代はしばらくは来ないと思っていたのに、お掃除ロボットは健気で生きているように動き、思わず一緒に部屋を掃除してしまうから。

問二 小一時間ほど走り回ってちょっと疲れたように充電基地に戻ってきたお掃除ロボットが、意外な量のホコリや塵を集めていたから。

問三 お掃除ロボットを使う自分が、逆に、ロボットが仕事をしやすいようにいろいろと気を使っていること。

問四 する側とされる側の役割の間に線を引いた途端に、される側がする側に対する要求水準を上げてしまう場面。

問五 決して効率的とは言えない気ままなお掃除ふりで、同じところを行ったり来たりと重複も多く、取りこぼしもあり、ケーブル類を巻き込んでギブアップしたり、椅子と壁との袋小路に入り込んだりしかねない様子。

問六 「モノ」や「対象」に対して、一方的に効率性やわかり易さなどの価値を求める関わりではなく、それらの「不便さ」や「弱さ」、「わかり難さ」などが許される関わり。

《二》

I	① 縦断	② 模造	③ 観覧	④ 構築	⑤ 専属
	⑥ 風評	⑦ 画策	⑧ 沿革	⑨ 謝辞	⑩ 末席
II	⑪ 細工	⑫ 筋金	⑬ 寸鉄	⑭ 竹馬	⑮ 危急
	① 消費	② 演技	③ 一堂	④ 展示	⑤ 遺産

《三》

問一 小学校の入学式で、どこの子供か分からない新入生の二人の男の子を目にしたこと。

問二 イ

問三 直接体験している「現実世界」は、「外部世界」とは無関係で、そこに安全性と安定感があるのを当たり前に受け止めていたもの。

問四 壁の検問所が開放されたことと、その後二人の同級生が学校に来なくなったこと。

問五 世界中のものと「私」とが見えないところでどのように関係しているのかについて、強い関心を抱くようになった。